

「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」において キリングroupが環境サステナブル企業部門で「金賞」を受賞 ～昨年に続き2年連続の受賞～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門で「金賞」を受賞し、2月24日（水）に表彰式が行われました。

「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」は、ESG 金融または環境・社会事業に積極的に取り組み、インパクトを与えた機関投資家、金融機関、仲介業者、企業などについて、その先進的な取り組みなどを表彰し、広く社会で共有し ESG 金融の普及・拡大につなげることを目的に、環境省が2019年度に創設した表彰制度です。当社は、昨年第1回目の受賞に続き、2年連続の「金賞」受賞となります。



キリングroupはCSV^{※1}を経営の根幹に据えることを宣言し、「酒類メーカーとしての責任」を前提に、「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」の3つの社会課題に事業を通じて重点的に取り組んでいます。

「環境」については、昨年2月に「キリングgroup環境ビジョン2050」を発表し、「生物資源」「水資源」「容器包装」「気候変動」の4つを重点テーマとして、持続可能な社会を目指した取り組みを加速させていきます。

また、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD^{※2}）提言に、日本の食品会社として初めて賛同を表明し、今後もシナリオ分析など情報開示を積極的に継続していきます。

※1 Creating Shared Valueの略。お客様や社会と共有できる価値の創造。

※2 The Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略。

環境サステナブル企業部門「金賞」受賞理由

社会にポジティブインパクトを与えたいというトップマネジメントの強い意志の下、従来から取り組んできた環境対応を着実に前進させており、先進的な取り組みが行われている。これらの取り組みが日々の企業活動に中ししっかり浸透しており、具体的な取り組みに関する情報開示についても、目標設定から今後の対応に至るまでのPDCAサイクルが着実に機能していることが、投資家に十分伝わる内容となっている。

経営者インタビューからは、環境サステナビリティが経営トップの意思や取締役会構成、サステナビリティを考慮した報酬体系など経営全体に浸透していることが確認出来た。

2020年TCFD刊行のシナリオ分析ガイダンスにおいては、世界15社の中で、日本企業として唯一選ばれており、名実共に日本を代表する環境サステナブル企業となっていると判断される。

今後は、先進的な環境対応が中長期的な企業価値向上と密接不可分であることを、より積極的に示して頂きたい。世界のCSV先進企業としての地位を確立すべく、取り組みをより進化させ、グループ企業へのより一層の浸透を通じて、世界屈指のESGリーディングカンパニーとなることを期待したい。

（ESGファイナンス・アワード審査事務局よりいただいた受賞理由より抜粋）



キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯崎 功典

今後もキリングgroupは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンにかかわるすべての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。

<参考>

・環境省「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」受賞結果

<http://www.env.go.jp/press/109169.html>

・キリングgroup環境ビジョン2050

www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0210_01.html